

第8回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

開催日時
令和元年12月20日(金) 14:00~16:05
開催場所
匝瑳市民ふれあいセンター第1会議室
出席者
委員長 鎌田元弘 副委員長 依知川進 委員 下妻一夫、田邊久利、大塚榮一、岩井清、飯田正信、加瀬健司、永井哲哉、椎名勤、江波戸友美、加瀬功一 (事務局) 企画課：大木課長、江波戸主査、木内副主査
欠席者
委員 熱田晶裕

※委員については敬称略

会議内容
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none">1 開 会2 あいさつ3 自己紹介4 議 事<ol style="list-style-type: none">(1) 委員長、副委員長の選出について(2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について(報告)(3) 地方創生推進交付金を活用した事業の効果検証について(4) 「匝瑳市人口ビジョン」改定方針及び「第2次匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定方針について(5) 匝瑳市人口ビジョン(素案)について(6) 匝瑳市の高校3年生に対するアンケート調査結果について(報告)(7) その他5 閉 会 <p>【議事内容】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 委員長、副委員長の選出について 委員長を鎌田元弘氏に、副委員長を依知川進氏に決定した。

会議内容

(2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（報告）
資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

御質問、御意見等ありましたらお願いします。

《委員》

空き家バンクの取組状況について、詳しくお伺いしたい。

《事務局》

資料8ページに基づいて説明する。定住を促進する取組の中で、空き家バンクについて掲載している。空き家バンクについて簡単に説明すると、不動産業者の御協力のもと、市内に所在する未利用の空き家を、利用希望者へと繋いでいく事業である。

総合戦略では空き家バンクに関するKPIを2つ設定しており、Bが空き家バンクへの登録物件数、Cが空き家バンクを介した成約数である。Bは目標50件に対し、実績が38件、Cは目標15件に対し、実績が13件である。引き続き、空き家の利活用を進めていきたい。

《委員》

空き家はトータルで何件くらいあるか。アバウトな数で良い。

《事務局》

空き家対策の所管課が都市整備課のため、詳細な数値は手元にないが、市内におよそ600件ほどである。

《委員》

その600件を空き家バンク登録に繋げるための方針等はあるか。

《事務局》

空き家所有者に対して通知や連絡する際や、所有者からの相談があった際に、空き家バンク制度を紹介している。これをきっかけとした物件登録もあるが、全てが結びついていないのも現状である。

《委員》

空き家対策で最もご苦労されるポイントとして、所有者の特定が困難な物件が挙げられる。所有者が特定されていれば助言や交渉ができるが、死亡していたり、未相続であったりと、追跡困難な物件がある。これまでの業務の中で、所有者がわかった、あるいはわからなかった割合はどのくらいのものか。

《事務局》

割合についてははっきりとは言えないが、空き家バンクに関しては基本的に所有者本人からの問い合わせや相談が多いので、権利関係はある程度すっきりしているものが多い。

その一方、空き家には権利者がわからない、あるいは権利関係が複雑な物件が増加しているという状況も承知しており、大きな課題である。

《委員》

所有者を特定するのはなかなか難しい。不動産業者として引き続き協力するので、目標達成に向けて頑張ってもらいたい。

会議内容

《委員》

空き家対策法ができたことにより、国土交通省によると空き家の発生が抑止されていると聞いているが、匝瑳市の状況はどうか。担当課ではないから答えられないかもしれないが。

《委員長》

この場での回答が難しければ、後日事務局からの報告とさせていただきたい。他にあるか。

《委員》

8ページの社会増減数に、外国人就労者は含まれているか。外国人就労者は2～3年で帰国してしまうため、それを含めると全体の数が見えづらくなってしまう。

また、10ページに数値目標として合計特殊出生率が設定されているが、出生数を併記してはどうか。と言うのも、匝瑳市内の3つの中学校について、この3月で卒業した生徒の数は292人であり、一方で、平成30年に生まれた子供は142人であった。差し引き150人の減で、50パーセント以上減少している。平成30年に生まれた子供は、15年後には中学校を卒業するが、今後15年間はそのペースで人口減少が進んでいくということだ。合計特殊出生率ではその深刻さが市民に伝わりにくいため、出生数も併記で入れていただきたい。

また、12ページの婚活イベントカップル数について、これはカップル数であって、婚姻数ではないということで良いか。結婚した組数を書いた方が分かりやすいと考える。

《事務局》

8ページについて、社会増減数に関するデータの出典元は千葉県毎月常住人口調査報告書であり、これは外国人を含む数値である。

10ページの出生数の付記については、今後検討したい。

12ページのカップル数については、あくまでも婚活イベントを通じて成立したカップルの数である。市では様々な婚活イベントや取組を行っているが、その後の成婚について把握・追跡が困難のため、カップル数を指標としている。

《委員》

結婚の件数は出生数の先行指数である。行政が婚活支援をすることについては批判もあると思うが、民間でも世話役の人が地元に住たりするので、そういう人と協力しながらやっていくと良いと思う。

(3) 地方創生推進交付金を活用した事業の効果検証について

資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

御質問、御意見等ありましたらお願いします。特に、生涯活躍のまち形成について、直接・間接に関わっている方がいらっしゃれば、補足等を含めて御意見を伺いたい。

会議内容

《委員》

飯倉駅前地区まちづくり協議会の委員を務めている。生涯活躍のまちについては、これからが正念場と考える。現在は九十九里ホームのホームグラウンドである飯倉駅前の事業地内で、こども園や特別養護老人ホーム等の事業がスタートした段階だが、今後はサービス付き高齢者向け住宅の入居者募集が始まる。元気な方に移住して活躍してもらい、介護が必要なときに介護を受ける仕組みだが、PRが不足している。サ高住には市内外から50人が入居する計画だが、そのための魅力や情報発信ができていないのか不安である。移住者を確保できなければ、経営的なダメージにもなりかねない。

また、交流拠点施設についても、飯倉の人たちからは期待するニーズがあるが、そうした住民の期待に応えられるかどうかも課題である。

《事務局》

PRやサービス、取組内容については、飯倉駅前地区まちづくり協議会をはじめ、様々な御意見を頂戴しながら進めているところである。PRについては行政の不得意な分野でもあるが、多くの方に匝瑳市を知っていただき、移り住んでいただくように力を入れて取り組みたい。

(4) 「匝瑳市人口ビジョン」改定方針及び「第2次匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定方針について

資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

御質問、御意見等ありましたらお願いします。では、私からお伺いしたい。関係人口について市はどのように捉えているか。

《事務局》

関係人口とは、移住には結びついていないが、地域と結びついて密接な関係を持つ者のことを指す。関係人口については、方針の中で本市に関心や興味を持つ方との関わりづくりを課題として挙げている。

具体的な方向性は現段階ではお示しできていないが、単なる事業協力や観光による一過性の交流を越えて、多様な繋がりづくりと協働を推進していくことが重要と考えている。

(5) 匝瑳市人口ビジョン（素案）について

資料に基づき事務局から説明した。

《委員長》

色々なグラフを見ると恐ろしいことになることが分かる。もしかしたら今後英語教育が進む中で、若い人が海外に行ってしまう、といったこともあるかもしれない。社会の変革が地域だけでなく、日本全体で進む可能性がある。

私の判断で恐縮だが、質疑応答の前に、次の議題である高校生アンケートを先に事務局から御説明いただき、その動向を併せて検討していくのが良いと思われるが、いかがか。

会議内容

《委員了承》

(6) 匝瑳市の高校3年生に対するアンケート調査結果について(報告)
資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

高校生アンケート、人口ビジョンについて説明があった。課題にリーチするような策を検討していくことが重要である。各委員のアイデアやビジョンについて、色々な視点から検討していきたい。

《委員》

匝瑳高校では地元出身の教師も多いこともあり、微力ながらも匝瑳市の人口減少に歯止めをかけたいと考えている。そうした中で、本校では「仕事を知らう」を合言葉としたキャリア教育に取り組んでおり、教師などの教職編、臨床検査技師や放射線技師などの医療編、看護師などの看護編、成田空港とタイアップして、空港関連事業にインターンを行う成田空港編、そして今年から市と連携して起業編などを実施している。その効果がどの程度出るかは検証できていないが、力を入れていきたい。

また、自分の周りの話で恐縮だが、長男は地元に戻って教員をしており、妹は東京で民間企業に勤務し、弟は神戸で教員の仕事に就いている。この中では、民間企業に就職した妹が、一番給料が良い。加えて、地元には大きな企業が少ない、職種が限られてしまうということがあり、アンケート結果から見受けられるとおり、なかなか戻ってくる生徒が少ないのが現状であると考えている。

《委員》

人口減少の要因としては、出生数が減っていることに加え、高校卒業後、あるいは大学生などの若い人が、地元就職せず市外へ流出してしまうことだと考える。そこで、市ではハローワークや商工会と連携し、地域の職業情報を集め、高校生・大学生向けの職業説明会をやっていただきたい。

また、若い人はネットで情報を仕入れているので、高校生・大学生向けの就職情報を発信してほしい。自治体の取組として、ハローワークのホームページを案内するものが多いが、ハローワークは全世代のため、若者が見たい情報になかなか辿り着けない。市が情報サイトを立ち上げて発信していただきたい。

出生数の減少については、子育てしにくい環境があるのではないかと思う。子育て環境、特に共働きの夫婦のうち、女親が子育てしやすい環境を作るため、保育所の開所時間の延長や休日保育、一時保育、病児・病後児保育、障害時保育など、保育を前に進めて働きやすい環境を作っていただきたい。保育士が集まらない話も聞くが、ここはひとつ力を入れていただきたい。

高齢化により、団塊の世代と呼ばれる昭和22年から24年生まれの方々が、今年誕生日を迎えて70歳になった。今まで地域経済を支えていた方々が、全員70代になってしまったということだ。農業経営者、企業経営者も高齢化しており、何とかしなくてはならない。対策としては、商工会と連携して事業

会議内容

承継を推進していくことだと思う。

事業承継は非常に手間がかかり、会社の内部にまで入ってマンツーマンで事情を聞かないとうまくいかない。5年以上かかる例もあると聞いているので、商工会と連携して進めていただきたい。

農業については、耕作放棄地が増えている。若い人で規模を拡大したいという人へ、農地を集める取組が必要である。また、農業法人の参入にも力を入れてほしい。

農業を開始するに当たり、一番ネックとなるのは農地をどのように借りるかである。この点について、埼玉県の羽生市は市が間に入って農地の賃貸関係をサポートしており、10ヘクタールの農地を一団として、希望する農業法人に貸し出す取組をしている。そうした成功例を参考にしていきたい。

《委員》

自分は匝瑳市民ではないので、関係人口かもしれないが、安心して働けるまちづくりのために活動している。工業団地の協議会の他、匝瑳市の委員もやらせていただいているので、今の委員の御意見の中で、御回答できるところは御回答させていただきたい。

まず就職の件について、企業説明会をやりたいということはかなり以前から言ってきたことだが、実現に結びついていない。その理由としては、近隣各所との関係がある。旭市では、高校生300～400人が参加する大規模な雇用対策協議会の就職イベントが開催されている。高校の先生とも御相談しているところだが、3年生が何か所も色々な行事に参加するのは時期的に難しいとのことであった。

そうした中でも、昨年からは地域振興事務所の御尽力のおかげで、海匠3市の企業と高校生との意見交換会が行われるようになった。ただ、この意見交換会は2年生を対象としているため、3年生向けのアプローチについては、地域振興事務所と打ち合わせている最中である。

なお、今年はいい話があり、工業団地とは別に市内企業が約40社から成る匝瑳市雇用促進協議会が立ち上がった。志ある企業からこうした声が上がリ、集まったことは非常に良いことだと思っており、来年1月に実施する地域振興事務所さん主催の高校生との意見交換会が、協議会の初事業となる予定だ。

また、自分は商工会の理事を務めているため、事業承継についても申し上げたい。商工会として事業承継は重要と認識しており、市との連携のもと、しっかり対応しているところである。

就職に関しては、働く場が無いというよりも、限られてしまっている職種があるというのが課題である。特に、進学校に対応するものについてはかなり数が少ない状況である。

工業団地の中だけで言えばエンジニアが欲しいということもあり、旭市の東総工業高校や、千葉工大などエンジニアが育つ学校へ視線が向けられているが、匝瑳市でも雇用促進協議会ができたので、もっと幅広い職種が出てくる可能性もある。千葉銀行とも一緒にできないか相談している。銀行はベンチャー

会議内容

支援にも熱心にされているので、幅広いラインナップを御紹介できる日が来るのではないかと考えている。知っていただくことも含めて、できることを模索していきたい。市長とも、八日市場ドームを貸切にして職業説明会をやりたいと話をしている。

また、県の工業団地の責任者を務めている立場から、安心して働けるまちづくりの関連情報をお話ししたい。現在、匝瑳市には2つの支援学校が所在することもあり、支援学校のお子さんが安心して働けるような企業づくりを進めている。当社にも今年2人の卒業生が就職して、正社員として頑張っている。

そうしたことが背景となり、11月には滝川副知事を筆頭に、県の教育課、教育長、産業振興課、支援課、銚子ハローワークの所長が、今までに無かったような合同会議も実施された。安心して働けるということが分かれば、定住にも結びついていくのではないかと思う。

婚活支援については、自分も協力しているところだが、結婚しても必ずしも子供には結び付かない現状もある。

匝瑳市は宣伝下手な方が多いが、以前と比べると大分進んでいると思われる。こうした取組を継続していくことが大切と思う。

また、進捗状況については、毎回申し上げていることだが、取組がされていないものについては、できなかった理由を直接担当課から伺いたいくらいである。×が続いているものについても、PDCAを回す中で、同じ施策で良いのかを検証していくべきである。そうした点を含め、企画課において関係各所をお願いをしていただきたい。

《委員》

高校生アンケートの中で、居住地に重要視することとして「交通の便が良い」「勤務先に近い」が挙げられている。先日、多古の友人と話をした際に、10年後に成田空港の滑走路が伸びることや、それに伴う県道や銚子連絡道の整備が話題となった。そうした交通アクセスの変化をまちづくりと絡めていくと、地域が変わっていくのではないか。

今は従業員が新幹線を使って通勤する企業も多い。企業が交通費を支給し、遠いところからの勤務が可能になっている。よく言われることとして、田舎には仕事が無いということがあるが、今は東京のインターネットの会社が四国で業務をしているように、職種にもよるが幅広くやれる時代である。その点もまちづくりに加味して、継続性のある戦略にしていただきたい。

《委員長》

若い方や、女性の意見など、生の意見をもっと聞いてみたいところであるし、情報インフラや交通の整備も含め、色々な観点、攻めの部分があっても良いと思う。大学はロボットやIoT、AIなどを教えており、生徒は就職する際にはなかなか地域に目が向かない傾向にあるが、一旦東京に出たとしても、こちらに関心を持ってくる仕組みが必要だ。工業系の生徒は男の子が多いが、こちらに来ると彼女が見つからないというような危機感もある。そのような生活感・実態感も視野に入れて詰めていただけると、良い戦略ができるのではない

会 議 内 容

かと思う。

(7) そ の 他

《委員長》

委員の皆様から何かございますか。

《一同》

なし。

《委員長》

事務局から何かありますか。

《事務局》

市では、情報提供の一環として、審議会等の議事録を市ホームページで公開している。本日の会議の議事録等についても、後日委員の皆様を送付するとともに、市ホームページで発言者氏名を「委員」として内容を公開する予定なので、よろしく願いいたします。

以 上